

令和4年度 私立短期大学学生生活指導担当者研修会

分科会報告

<共通テーマ>

1) 心身健康に関わること

(合理的配慮、障害種別学生支援、発達障害学生支援、LGBTQ、学生相談、メンタルヘルス支援、保健管理、感染防止支援・指導 等)

2) 学生生活に関わること

(成年年齢引き下げ、経済支援、奨学制度、学生同士の交流会、友達づくり、学生支援のオンライン活用、留学生支援 等)

3) 危機管理に関わること

(保護者対応、クレーム対応、個人情報漏洩対策、SNS関連対応、コンピューターウイルス対策、防災指導、部署間連携 等)

頁

| | |
|---------------------------|---|
| 【分科会1】担当：吉富、野中 各委員…………… | 1 |
| 【分科会2】担当：中野、多田 各委員…………… | 3 |
| 【分科会3】担当：鈴木副委員長、大野委員…………… | 6 |
| 【分科会4】担当：狩野、岩井 各委員…………… | 8 |

分科会 1

担当

東邦音楽短期大学 吉富 浩二 委員

山梨学院短期大学 野中 弘敏 委員

本分科会は、運営委員 2 名を含む 28 名で構成され、内 20 名は本研修会への初回参加者であった。昨年に続き今回も Zoom を使用したリモート分科会となり、3 時間余という限られた時間での実施となった。そのため、事前に運営委員から各参加者へ、当分科会の進め方を案内するメールを発出した。同時に、6～7 名ずつ 4 つの小グループに分かれて意見交換を行う際、グループ内の「進行役」（ファシリテーター）を、各グループ内で学生支援のご経験が「比較的長め」（4～7 年）の各位に予めメールにて依頼させていただいた。

当日は、まず午前中 40 分間のセッションにて、運営委員を含む参加者全員が自己紹介を行い、その際今回関心を持って臨むテーマについても一言添えていただいた後、委員より、申込時の事前アンケートに対する参加者の回答に基づき「今回話題にしたい・情報を知りたいこと」を集約した結果を紹介し、参加者全体で互いの関心事を共有した。

午後のセッションでは、先述の小グループで 70 分間、参加者同士意見交換を行っていただいた。休憩後の 70 分間は、分科会全参加者が再び一堂に会し、主に「進行役」より各小グループで話題となった事項や質問を紹介していただいた後、多くのグループを通じて話題に挙げられた事項や個別に挙げられた質問を取り上げ、全体で意見交換を行った。

各小グループおよびその後の全体討議で話題とされた事項は、概ね以下の通りであった。

①障がい学生支援・合理的配慮

2024 年より改正障害者差別解消法による民間事業者への「合理的配慮」が義務化される流れもあり、各グループで多くの関心が寄せられていた。話題として、

- ・合理的配慮の実施に係る書類の整備が課題となっている
- ・配慮希望があった際の確認方法として、事前調査や担任教員による面談を実施している
- ・障がいや心理的問題を抱えた学生に対して、コーディネーターを配し入学前より教職員が相談に応じている
- ・定期試験の別室受験について、コロナ対応に加え、配慮の対象となる学生の増加により、教室・時間設定・監督等の手配が困難になっている
- ・障がい学生の就職支援にあたり、障害者雇用支援サービスを提供する業者を利用している
- ・高校から大学へ進学するにあたり合理的配慮の必要性が認知される例がみられる
- ・教職員間の認識の差異や、教員間での情報共有の難しさが課題となっている
- ・周囲からは支援の必要が感じられるが、本人自身がそれに気づくことが難しい学生への対応に苦慮している
- ・学生向け情報の周知に際して学生グループで共有されることの意味は少なくないが、学生課窓口で「気になる学生」と認識された学生は仲間づくりの困難が情報共有の困難につながる場合がある、等が挙げ

られた。

②学生相談

- ・コロナ禍において閉じた空間での面接が困難な中、カウンセラーがオンライン面談に対応している
- ・親子関係の不調もあり学生生活上の困難を抱える学生への支援に難しさを感じている
- ・ハラスメント対応の体制として、ガイダンスや掲示による周知・強化月間の設定等を実施している等の事例が挙げられた。

③情報管理・ICT・SNS

コロナ禍により利用機会の急増したオンラインの運用に関連して、

- ・学生への連絡手段として学内ポータルサイトへの掲示を個別メールによる周知と連動させているが、メールを確認しない学生に対してはチャット機能の活用がより有効ではないか
- ・オンラインと対面の使い分けについて、ステージの変化に伴い対応している・対面授業時の座席指定や着席場所の記録をしている等の取組みがみられる
- ・コロナ感染状況の共有について、保健室で把握し教職員と共有している等の話題が挙がった。

④課外活動

数年ぶりに学園祭の対面実施を再開する短大も多くみられたが、コロナ禍により企画・運営の流れがいったん途絶えたことから学生や教職員に戸惑いがみられる例が複数語られた。

⑤奨学金

家計急変時の支援や特待制度、短大独自の奨学制度等について、入試成績を反映した奨学制度・教育ローンの利息補填・ワークスタディや奨励金の制度等の取組みが紹介された。

⑥クレーム対応

通学時のマナーに対する近隣住民からの苦情について、地域自治組織との協議に取り組む等の提案がなされた。奨学金の手続きに関するクレームでは、短大側を一方的に責める学生に対し、落ち度のない面には是々非々で毅然と対応する一方、学生自身にこれまでの経緯をよく語ってもらい、丁寧に耳を傾けることで、なぜこのような結果になったのか・自分に何ができたのかに自ら気づいてもらう関わりの大切さが語られた。

本年も、職場からのZoomへのアクセスにより参加がしやすかった等の利点はみられた一方、事後アンケートでは「時間の少なさ」に関する感想を複数いただいた。学生支援上の多様な課題に触れることができた半面、その解決へ向けた方策の検討が十分できなかったという感覚が残ったとも考えられ、時間が制約された今回のような実施形態の際は、参加者の関心事を最大限反映したグループ設定やテーマの精選についても検討の余地があると感じられた。

参加者の皆さまには、小グループの進行役をはじめ、分科会の進行に深いお気遣いと多大なご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

次回こそは、気兼ねなく対面でじっくりと対話できる状況が迎えられるように…。

分科会 2

担当

愛国学園短期大学 中野 都 委員

武庫川女子大学短期大学部 多田 祥治 委員

A グループのまとめ

共通テーマの中から、1)心身健康に関わること、2) 学生生活に関わることを中心に各校の現状を報告していただき、共有した。

1. 心身の健康に関わること

(1) 障がい学生支援に関する各校の取組みについて

- ・ 支援につなげる体制づくりとして各校の現状を報告していただいた。
- ・ 入学手続きの際に合理的配慮の申出を受けてヒアリングしている。
- ・ 新入生の健康調査等で申出を受け、ヒアリング、関係委員会や関係部署を通して支援体制を構築している。
- ・ 学生支援が当たり前になってきているが、障がい学生支援に関する問題については、改めて教職員への意識づけすることが大切である。

(2) 学生相談室、カウンセラーの設置について

- ・ いずれの学校も毎日ではないが定期的にカウンセラーを配置し、相談を受けている。
- ・ コロナ禍においてオンライン相談や電話相談など工夫している。
- ・ カウンセラーからの情報共有については、緊急性があれば、教職員や関係部署にフィードバックしている。
- ・ 学生相談室だけでなく、ゼミ担当者やクラス担任、日頃から学生との関係性が構築できている学生部が学生に近い距離で相談に乗っている。

2. 学生生活に関わること

- ・ クラブやサークル活動については、活動が下火になっている。
- ・ どんなことを学校がバックアップできるかを考える必要がある。
- ・ 学生がやっていることを学生と一緒に教職員が SNS で発信している。
- ・ グループワークを取り入れた授業を行うなど、学年を越えたグループで話し合う場を設けることも大切である。
- ・ 大学祭やイベントについては、規模を縮小したり、入構制限をした上で開催したりする学校が多い。
- ・ 行事については、アンケートなどで学生の意見を取り入れた企画・運営ができるよう工夫している。
- ・ 大学での入学式や卒業式ができていない、保護者を入学式等に招くこと出来ていない中、入学式は学生が司会するなど今までにないやり方で工夫をしている。

3. その他

(1) 学生とのラフな関係づくりについて

- ・ 「楽しい短大」をテーマに学生対応している。
- ・ 特に工夫はしていないが、学生が諸々の手続きにカウンターに来た際に、プラスもう一言の言葉かけが大事である。

(2) 学生募集の秘訣について

- ・ イベントが制限されている中、やはりオープンキャンパスが大事である。
- ・ 実際には、オープンキャンパスに来た際の印象が良くて出願につながるケースが多いため、回数を多くすることよりも、小規模でもいいのできめ細かく対応することで出願者増につながるのではないかと。

B グループのまとめ

共通テーマは 3 つあったが、参加者が問題意識を持っているのが 1), 2) に関する課題が多く、この 2 つを中心に討議した。

1. 心身の健康に関わること

合理的配慮は身体障害、知的障害、精神障害各々に対して取り組むべきであるが、基本的には本人からの申告に基づき実施するので、自覚がなく（特に知的障害）、申告しないこともあり、対応が難しいケースがみられる。実習先でトラブルになったりして、本人も周囲も苦しむこともあるので、実習担当者のみならず、学校全体としての情報共有が必要だと考える。対応として以下の意見がでた。

- ・ 入学後すぐ支援体制を組み立て、学校として取り組むために組織的な検証を行う検討会議を実施している。
- ・ カウンセリング担当が窓口になり、担任が個人面談する。
- ・ 学生支援コーディネーター、学生相談室のカウンセラー、担任の 3 者で情報を共有し、教職員が連携して支援している。
- ・ どのような合理的配慮を希望しているか、本人の意思表示が大前提であり、その上で就学支援検討会議を開催し組織的に支援している。チューター、保健室、学生支援に関わる教職員が個々の対応をするのではなく、実習に臨めるように皆で支援している。
- ・ 申出書は入学時に提出してもらい、学校全体で情報共有している。
- ・ 高校の欠席状況などを把握し、書類は入学後に提出、情報共有については本人に確認している。しかしながら、緊急を要する時は関係機関で共有し、支援している。
- ・ 今年度初めて、2 名の車いす利用の学生が入学したが、本人の申告書のみならず、高校の教員や家族、社会福祉協議会の方を含め皆で課題を確認して支援している。校内に障害学生支援委員会を設置（副学長、教員、事務職員、保健室、教務その他）している。福島県の学校であるため、東日本大震災の原発事故の影響でメンタルが不安定な学生もおり、支援体制の構築に全学で取り組んでいる。
- ・ 視覚障害のある学生に対しては、ノートテイクや学校生活の手伝いを学生がサポーターとして有償で行っている。しかしながら、修学支援サポーターのコーディネート作業も課題があることは否めない。
- ・ ノートテイクや字幕入れなどは年度初めにアルバイトとして配置している。

- ・聴覚障害のある学生についてのノートテイカーはアルバイトとして従事しているが、市の援助もある。

2. 学生生活に関わること

(1) 学祭等のイベント開催について

学生や地域住民との交流の場として、コロナ禍前までは学祭を実施していたが、ここ 3 年学祭を中止している学校が多かった。その代替りとして、体育大会やスポーツフェスティバルなどを開催している学校もあった。

- ・学生主体の体育大会を 5 月に開催した。綱引き、バトンリレー、大縄跳びの 3 種目をマスク着用で実施した。今後、一般客も参加しての文化祭開催も視野に入れている。
- ・使っていない学祭の予算で花火の打ち上げを実施し、地域住民の方にも喜んでもらえた。
- ・キッチンカーを呼んで学生に食べ方指導をして楽しんだ。

(2) 奨学金対応について

必要資料提出の期日が守れない等、担当職員の負担が増えている傾向にある。

- ・奨学金については学内一斉メールで連絡しているが、担任が週 1 回ホームルームを開催して周知することもある。
- ・学生の 75%が何らかの奨学金を受けており、オンデマンド形式で発信しているだけでなく、アドバイザー（教員）から詳細に説明して周知している。

(3) その他

留学生によるトラブルや LGBTQ についてはジェンダーに関するガイドラインが必要だと感じる、等の意見が聞かれた。

3. 危機管理に関すること

- ・学校法人、教員、教務学生課、学生支援課など他部署と連携・協働して全学的に取り組んでいる。
- ・保護者からのクレームにも対応することがある。

分科会 3

担当

戸板女子短期大学 鈴木 俊昭 副委員長
園田学園女子大学短期大学部 大野 明子 委員

第3分科会では、分科会の進め方についての説明後、参加者 28 名全員による自己紹介（勤務校紹介、今回聞きたい案件など）で分科会第一部を終了。第二部は、さらに小グループ（4 グループ）に分け、指定されたブレイクアウトルームに各自が入室。なお、小グループでのファシリテーターは事前に決められている。その後、共通テーマ（1 心身健康に関わること、2 学生生活に関わること、3 危機管理に関わること）を中心に、活発な討議が行われた。

分科会内の最後に行われた各グループから発表された内容について、以下の通り、まとめ、報告する。

合理的配慮について

- ・入学前の事前相談受付後、保護者、学生本人、教員間による面談、内容によっては、委員も入った上、個別に各科目担当教員への配慮依頼を文書にて行っている。
- ・合理的配慮の周知はHPで行っていない。
- ・コロナ禍、メンタル面で不調を訴える学生、対応しにくいケースが増えている。
- ・実習先への依頼は、科目担当の教員、もしくは、職員が個別に依頼を行っている。
- ・実習中に発覚（発達障害等）した場合、保護者に連絡し、資格取得は難しく辞退を勧め、単位取得のみに専念できるよう指導したケースがある。
- ・4年制（大、短との違い）との大きな差はないとの意見もあった。

課外活動 1

- ・コロナが収まりつつある中、活動申請を受付、内容確認した後、活動再開許可を行っている。

学生対応（特に奨学金関係）

- ・メール、掲示板が基本であるが、場合によっては、ゼミ・担任に報告、学内放送、保護者への電話連絡、教室まで出向くなど行っている。特に、掲示ポスターについては、学生番号等、太文字やハイライトで示すなど学生の目を引くよう工夫している。
- ・マスクを拒否する学生への対応。

学祭

- ・大学祭については一部中止の大学もある中、基本的に対面で行う方針。但し、調理食品販売については中止する大学がほとんどであった。
- ・対面で実施する大学が多くありながら、飲食は基本的に禁止する他、基準を設け、可否を行っている。

保護者、学生への対応

- ・心理的ストレスをどのようにコントロールするか。
- ・心理カウンセラーの配置。
- ・守秘義務上、どのように情報共有するか課題。

教職員の関わり

- ・教員、職員の個々のすみ分けが重要である。

奨学金

- ・学生の意識が低く、そのあたり変えることが必要である。
- ・締切りのある書類の対応や学生への連絡方法について各短大では大きな課題であり、保護者へ通知（郵送）する他、入学時からの対応、仕組の検討が重要である。
- ・その他、掲示物については、わかりやすいPOPなものにしたり、学生へのアナウンスのしくみに工夫を行ったりしている。また、説明会の最初に、手続きが不完全であるとどのような不利益が生じるか説明することも重要である。

課外活動2

- ・学生だけでは困難だが、教職員のサポートが重要である。しかたなく活動を行っているケースが見受けられる。（コロナ禍で活動が停止していた期間が長く、引き継ぎが出来ていない）

危機管理

- ・フローチャートを整え、対応できるよう日頃から体制を整え、備えておくことが重要である。
- ・『学生支援の手引き』を作成し、全教職員が対応できるよう体制を整えている。

まとめ

今回、各グループで意見交換がされた内容は、現状の問題点や課題であり各会員校でもその対応や解決に苦慮されていることが共通認識された。コロナ禍に於ける学生生活でどうすれば学生のモチベーション向上に繋がるか、また、奨学金に対する学生への指導方法など活発な意見交換がなされ、各校の取り組みが紹介され参考になった。各グループ討議で交換された意見はいずれも問題の優先度合いが高いことが認識された。また、学生に対していかにきめ細やかな対応が必要不可欠であるかが感じられた分科会であった。

昨年に続き今年もオンラインでの研修会であったが、志を同じくする教職員が、短時間ではあるが意見交換できることは大変貴重な機会であり、学生生活や指導に関わる者の更なる質的向上に寄与するものとする。

分科会 4

担当

貞静学園短期大学 岩井 幸博 委員

聖徳大学短期大学部 狩野 武晃 委員

1 事前準備

本分科会は、運営委員2名を含む29名の参加予定であった。参加申し込み時にいただいた関心の高いテーマおよびアンケート内容をもとにグループ分けを行った。討議は前半グループと後半グループに分け、まずは関心の高いテーマを中心に前半3グループ（9名ずつ）、A 心身健康について（LGBTQ、コロナ禍の学生の心身ケア等）、B 学生生活について（学生支援や奨学金等）、C 学生生活について（学生生活や課外活動等）に割り振りを行った。そして後半は4グループ（1・7名、2・7名、3・7名、4・6名）に分け、より多くの参加者と交流・情報交換すること、具体的な話し合いになるように少人数で割り振りを行った。参加者にはグループ分け、タイムテーブル、討議内容と流れを記載した資料を事前に送信し、意見・情報交換の準備ができるように配慮した。各グループの司会および書記の担当者には事前に依頼し承諾を得ることができた。

2 全体共有事項

各グループからの全体共有事項について箇条書きでまとめた。

【心身健康について（LGBTQ、コロナ禍の学生の心身ケア等）】

- ・学生との距離の取り方が難しい。学生の不登校や教職員に言えない学生への対応の仕方などが問題として上がった。その場合、どこまで関与してよいか課題がある。
- ・入学時から不安な学生がいる。入学手続き時に入学前相談があった。入学前レクリエーションなどで入学後にスムーズに学生生活を送れるように配慮している学校もあった。このような配慮を必要としている学生が増えている。
- ・LGBTQの学生にどのような対応を行っているか。学校の体制や設備の問題もある。受け入れ側がどのように変わったらよいか難しいところもある。
- ・学生の心身ケアを考えるにあたり、コロナ禍を経て、個々人で動ける学生と動けない学生が存在すると思われる。積極的にSNSで繋がり、友人のネットワークがうまく作れる学生と作れない学生がいる。部活動への参加も少ないため、1・2年生の関係性ができない場合もある。

【学生生活について（学生支援や奨学金等）】

- ・奨学金を保護者が使い込んでしまっている。
- ・奨学金の対応を専任職員の何名で対応しているか。他にも外注する、派遣職員と専任職員で分担するなどの対応がある。
- ・学生対応について、連絡が取れない学生が増加傾向にある。電話連絡ではなくSNS（LINE等）での連絡に切り換える、授業教室の前で待ち伏せして対応するなどの方法がある。文化祭などの行事で教職員が学生と積極的に交流することなどが学生対応に繋がる。

- ・聴覚障害のある学生への対応について、職員が授業に同行する、学校として補聴器の購入・貸与などの対応をしている。
- ・休退学の取り扱いについて、休退学願いの提出期限を守れない学生への対応に困っている。
- ・実習はどのように行っているか、実習期間中の授業の取り扱いや向いていない学生への対応について意見交換を行った。
- ・学生代表の意見を集めることについて、新生には入学前ガイダンス時に伝える、紙に書いて意見を集める、リーダー研修会で意見を聞くなどの方法が挙げられた。
- ・成年年齢の引き下げについて、学生指導でどのようなことを行ったか。オリエンテーションで説明や注意喚起を行った。
- ・ストーカー・盗難被害について、どのように事務が対応するか、例えば警察を呼ぶか呼ばないかなどについて話し合われた。
- ・短大・四大併設の学生対応に関する職員体制について、何人でどのような仕事をしているか。
- ・コロナ禍においてメンタルケアなど大学で新しく増やした支援について意見交換を行った。
- ・学生相談の問題点について、ゼミ担任やチューター制、クラス担任制など各学校それぞれが学生と教員と密な連絡がとりあえる体制を整えているが、連絡が夜分に及ぶなどの問題もある。
- ・ラーニングコモンズの取り組みについて

【学生生活について（学生生活や課外活動等）】

- ・サークル活動について、コロナ前後を比較すると学生参加率が低下傾向にある。
- ・学園祭について、学友会に所属している学生数の減少で学園祭などの行事の運営が難しくなっている。コロナ禍以前の学園祭を知っている学生がいなくなり、引継ぎが難しい。行事運営を知らない学生が多い。その分、教職員への負担が増していることなどが挙げられた。そのような中でどのように運営や進行を行っているか話し合われた。屋台や模擬店の出店はしないがキッチンカーはよぶ、飲食できる場所の限定、ハイブリッド（対面だけでなくWebで動画配信する）で実施する、今回は学生の思い出作りをメインにして内部のみで実施する、チケット配布制で入場者数を制限するなどの運営方法が挙げられた。他には過去の資料をもとに学生に指導するが伝わらない部分もあり、反対に知らないからこそ新しくすることもできるという意見もあった。
- ・課外活動の制限解除の時期やその決定方法等について意見交換があった。
- ・サークル活動支援については、運動系・文化系、屋外・室内など条件の違いが存在する。自粛ありまたはなしなどの条件もあった。活動する前に感染対策を提出する、顧問と相談し感染対策を提出する、サークル協議会を設けサークルごとの感染対策の徹底を確認する、など様々な対応方法が挙げられた。
- ・学内イベントの開催方法について、前期に学内イベントがどのように開催できたか、コロナ禍で開催できたイベントについてその開催方法や運営方法などの事例紹介があった。

3 まとめ

今回の分科会では前半グループを関心の高いテーマに基づき行ったことで、参加者が確認したい内容を共有できたのではないかと思う。後半グループではより幅広い参加者と情報交換をしてもらうことができたのではないかといえる。ただし、アンケートにはテーマを決めて話したいというような声もあった

ので次年度に向けて検討が必要であるように感じた。

参加者の皆様もオンラインに慣れているため全体としては大きな不具合もなく、活発な意見が寄せられていたと感じられた。アンケート結果を見てもよい時間を共有できたなどの意見がみられた半面、時間がもう少し欲しかったという意見もあった。

オンラインであることで遠方の方が参加しやすいというメリットは非常に高く感じたが、意見交換をする中で、より深みのある内容の交換をするためには、対面での意見交換を希望する声もあり、早く例年のような研修会を希望する声も聞こえた。

最後に事務局はじめ運営委員や参加者の皆様のご協力が無事に運営することができました。ご協力に感謝申し上げます。